



# radio Camnetに続くマガジン版 雲心月性

大槻ワールドへようこそ

Camnet マガジンをお楽しみの皆様。マガジン版「雲心月性」です。いかがお過ごしですか？

大槻は川崎医科大学の中の川崎医学会の運営委員長でデジタルサイネージに機関誌への投稿を促すスライドを月の前半2枚、後半2枚で流しています。Ms. Keiko C の描いたイラストと僕の写真です。2019年の5月と6月のスライドを紹介します。



短大に授業に行く時の民家のお庭や畑に季節を彩る花々です。



このイラストの少女は、もう半袖。五月の風は爽やかで、野原で読書でしょうか？



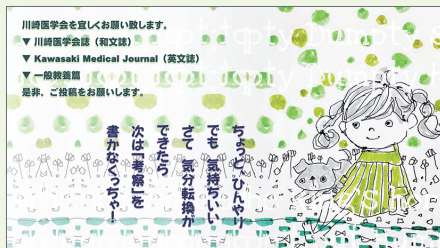
江ノ電から湘南海岸の富士山も見えるイタリアンレストラン。素敵な五月のディナーです。



さてイラストのクマさんは、小鳥さんにお茶をサーブしていますね。ゆっくりと tea time を楽しみましょう。



合歡の花は繊細で、花言葉は、「歓喜」「胸のときめき」「夢想」「安らぎ」です。



少女は、水に足を付けて……まだ、少し冷たいのかも。でも、夏を待ちきれないみたいですね。梅雨が早く去ってくれば。



泰山木の大きな花。暑さを少し凌いでくれますが、なんと、米国ミシシッピ州の州の木だそうです。



夏を前に、少女は髪を切りました。何かに集中する時には、短い髪も丁度良いのかも。

さて、オリジナル曲の歌詞紹介。【まぶしさ】という楽曲で、iTunes ではリリースしていません。歌詞に「五月」が出てきます。

ふとした出逢いに  
誰もが 胸 ときめかせて  
たとえば あの日盛りの  
あなたと私  
輝く光に

五月の風 くすぐらせて  
たとえば 髪 なびかせた  
あなたの姿  
追いかけて 行こうと  
私の 想いのままに  
いつまでも あなたと  
歩き続けたい

季節の 速さに  
いつしか 息 途切れようと  
たとえば 肩 寄せ合えば  
あなたと私  
二人の 淋しさ  
合わせて 愛 積み立てるの  
たとえば 頬 濡らし行く  
涙を越えて  
追いかけて 行こうと  
私の 想いのままに  
いつまでも あなたと  
歩き続けたい

2 か月分のコラムですので、時事的な話題は避けてしまっていますが、この原稿を作っている時点での新型コロナウイルスは、まだどこに収束していくのかが見えていない状況です。  
オリパラには影響なければよいのですが。



**プロフィール** 大槻 剛巳 (おおつき たけみ)  
川崎医科大学衛生学教授  
0歳: 京都府福知山市にて生誕  
14歳: 京都府中学校陸上競技大会にて100mハードル2位  
14歳: KBS近畿放送AMラジオでリスナーの詩として採用  
15歳: 倉敷市に転居  
15&18歳: NHKあなたのメロディー出演  
18歳: YAMAHAポプコン全国大会(譜面の部)出場  
20歳: YAMAHA神戸との連携で楽曲依頼あり  
24歳: 川崎医科大学卒業  
以降: 川崎医科大学血液内科~衛生学にて診療・研究・教育に従事  
1992-1996年: 米国留学(医学研究)  
1996年: 岡山県文学選奨現代詩部門選外秀作として「岡山の文学」に掲載  
2009年: Camnet CH-F (10-19) パーソナリティ担当  
現在に至る